タイトル（活動概要）	38　友達カルタ	アプローチ（関連する力）		「自分づくり」③ 「仲間づくり」⑬　⑭	
タイミング（実施時期）	友達のことがある程度分かってくる頃	活動場所	教室	所要時間	（作成２時間） ２０分
対象学年	幼・小低・小中・小高 中１・中２・中３・高	対象規模	学級	活動場面	国語
活動のねらい	＜背景＞被受容体験の不足から、「自分はこんなにもいいところがあるんだ」という実感が持てない子どもが多い **・友達のいいところをお互いに認め合う雰囲気を味わう** ・自分や友達のいいところを探す眼を養う				
準　備	・カルタを書くための厚紙				

学　習　・　活　動	支援の観点・留意点等	資料等
1　導入		事前準備
友達や自分のいいところをみつけて、カルタをつくろう		
・自分のいいところカルタを作る ・友達のいいところカルタを作る	・自分のいいところをお家の人や友達に取材をする期間を設ける ・だれにも書いてもらわなかったという児童がいないように、自分のいいところカルタの絵札と言葉の札ができあがった順番に次の友達について書く、というルールで行うなど配慮する （生活班などのグループ内でお互いにカードをつくり合うというルールにしてもよい）	カルタ
2　主活動		
友達かるたで遊ぼう		
○やり方を知る ・４人グループで、一人が読み手であとの３人で、行う ・　例「ぞうきんを　しぼるの　じょうずな　○○くん」という読みに対して、「あ、ぞうきん絞るの上手なの、○○くんだよ。」と思って、早くとるのは１回目だけＯＫ. ・　２回目以降は、全部読み終わってからとする		
3　ふり返り		
・自分のよさを見つけて書いたときの気持ちや、家の人に教えてもらったときの気持ち、友達からよさを見つけてもらったカルタを見ての気持ち、カルタをやってみた気持ちを話し合う	・カルタそのものの楽しさの中に、なかなか自分のよさに気づけなかったけれど、友達にもすぐにカルタをとってもらうことで認められたといったうれしさなどの感想を拾い上げる	

配慮事項	・言葉カードの内容チェックは事前に十分行っておく ・せっかくのカルタが、けんかの材料にならないように、クラスである程度のルールを決めてから行う